

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月21日

【評価実施概要】

事業所番号	0177400306		
法人名	社会福祉法人幸鐘会		
事業所名	グループホームべにばら		
所在地	〒078-2100 北海道雨竜郡秩父別町1542番地33 (電話)0164-33-2677		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年2月6日	評価確定日	平成21年4月21日

【情報提供票より】(平成 21 年1 月9 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・ 平成 19年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 12人, 非常勤 8人, 常勤換算	10.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ 150 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (1月9日現在)

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	4 名	要介護4	3 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.7 歳	最低 76 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人アンリーデュナン会深川第一病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、町の中心部に位置した閑静な住宅地に立地している。広い敷地に畑等も有しており、夏には野菜づくりを楽しんだり、地域住民を招いて、事業所前の駐車場で夏祭りを行っている。また、小学生に対して、認知症サポーター養成講座を開講したり、福祉学習の受け入れ等、認知症の啓蒙活動にも取り組んでいる。理事長をはじめ職員が一体となって、家庭的な雰囲気の中で、利用者の尊厳を守り、思いを大切にしながら日々の暮らしを支援しており、会話も弾む明るい雰囲気の中で、利用者は笑顔で過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回外部評価での改善課題については、ほぼ改善している。一部の項目については、継続して努力中及び検討中である。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、その他の職員で分担して自己評価を行い、管理者がまとめている。自己評価を実施したことにより、日々の介護を反省する機会となっており、評価の意義を実感し、介護の指針としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回会議を開催している。議題として事業所の運営状況、行事、評価結果と改善状況等について報告し、意見の交換を行っている。また、会議の結果を、運営や介護の質の向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情の受付については、利用開始時に十分説明するとともに、日常的にも家族の来訪時等に声をかけて、意見、希望を聴取するようにしている。また、意見、要望を得た時は、速やかに対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、町内行事にも参加して、町民としての生活の継続を支援している。また、事業所の夏祭りに地域の住民を招いたり、小学生の福祉学習、ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境の中でその人らしさを大切に」という法人の理念の下、町民であることを大切にした暮らしを支援している。現在、早急に理念を見直すべく検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基にしたケアについて、勉強会、ミーティングで話し合っている。管理者は、日々の実践の中でも、その都度、具体的に指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、事業所の夏祭りには、小学校、保育所、農協等にポスターを貼り、大勢の地域住民が参加している。小学1、6年生の福祉学習や、ボランティアの受け入れ、近隣住民の事業所訪問など、地域住民との交流が進んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、その他の職員で分担して自己評価を行い、管理者がまとめている。自己評価の実施が、日々の介護を省みる機会となり、評価の意義を実感している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催している。議題として、事業所の運営状況、行事、評価結果と改善状況等について報告し、意見交換を行っており、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーでもある町の担当者と、良い関係を築いている。また、地域包括支援センターを中心にした関係施設間での会議を持って、情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりについてのたより、事業所全体のニュースレター、出納帳のコピーを、毎月家族に送付している。また、家族の来訪時には、利用者の日々の暮らしぶりや身体の状態を伝え、理解を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付については、利用開始時に十分説明している。また、日常的に、家族の来訪時に声をかけ、意見、希望等を聴取するとともに、意見や要望に対しては、速やかに対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職は極めて少ない。ユニット間での職員交代は、必要に応じて行っている。また、職員が交代する時は、利用者によく説明をするとともに、新旧の職員が一緒に仕事をしたり、時々顔を見せ話しかけるなど、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の研修を大切にしており、立場や経験に応じた外部の研修に参加させている。また、内部研修も定期的に行い、資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議、計画作成担当者会議、地域連帯会議、サービス関係者会議等、外部の研修で交流を図り、サービスに役立てている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者、ケアマネジャーが本人の自宅を訪問し、次に家族と共に利用者に事業所を訪れてもらうなど、何度か顔を合わせて慣れるよう工夫をしており、本人の納得を得てからの利用開始としている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活歴や得意なことを把握して、力を発揮する場面や、教えてもらう場面を多く持つような工夫をしている。また、畑仕事や料理、漬物等、教えてもらうことが多く、家庭のように支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望は、日々の生活の中での言葉や行動からや、声をかけて聴き取るなどして、把握に努めている。また、利用者が、言葉に出せる環境をつくるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意見、利用者の意向を聞き取り、職員の意見を出し合って、一人ひとりに合ったケアプランを作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月ごとの見直しを行うとともに、状態の変化が生じた場合は、速やかに話し合いを持ち、適切な計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の介助、買い物、自宅を見に行くなど、家族の状況や利用者の希望に応じて、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族の望む医療機関で医療を受けているとともに、近隣の医療機関には、事業所で受診介助をしている。また、それぞれのかかりつけ医とは、いつでも連絡して指示を受けることが可能な関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、利用開始時から話し合い、書類も取り交わしている。今後は、さらに内容を検討し、全員で方針を共有して支援していく意向を持っている。	○	今後は、重度化や終末期に向け、事業所のできることを明記して、職員、家族の全員が、方針を共有することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	利用者への一つひとつの介護が、誇りやプライバシーを損ねることのないよう、適切な声かけ、動作で行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所のきまりは特になく、利用者一人ひとりの生活リズムを大切にしながら、その日の体調や希望に沿って過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで、利用者の力や希望に応じて、職員と一緒に調理に関わっている。また、利用者と職員が同じ食事を摂り、会話を進めながら、楽しい雰囲気をつくっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が、毎日いつでも入浴できるよう準備している。また、入浴を好まない利用者にも、工夫しながら、清潔を保つよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの生活歴や趣味、特技を把握しながら、役割を持ってもらったり、ドライブや買い物に出かけるなど、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、できるだけ散歩をしている。また、冬期間は、特に転倒に注意しながらマンツーマンで散歩をしている。さらに、定期的なドライブで風景を楽しんだり、個別の希望にも対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。職員は、利用者一人ひとりのその日の様子を観察して、見守りや気分転換などを工夫しながら、抑圧感のない生活を支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練を行っている。また、緊急連絡網も整備している。しかし、避難場所、役割分担等について、具体的になるまでには至っていない。	○	今後は、特に夜間の災害を想定した具体的な訓練と、近隣の協力が得られるような働きかけが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立を基本にして、利用者の嗜好を採り入れながら、メニューを考えている。また、水分補給は、1日に7～8回行っている。さらに、食事量、水分量は、その都度の観察と体重測定で把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に囲まれて中央に位置する共有部分は、十分な広さがあり、多数の椅子、ソファ、さらに畳みスペースもある。清潔で明るく、良い環境を保っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、大切なものや使い慣れた品を持ち込んでおり、壁には好みの飾りや家族の写真を貼るなど、それぞれ個性のある居室となっている。		

※  は、重点項目。